

9/6	田川 敬二	1. 参加日：9月6日（土）、7日（日） 7時30分～18時30分
9/7	経営工学 部門	<p>2. 参加場所：八木サテライトセンター（JP梅林駅北側）</p> <p>技術士会のご指示通り、土曜日朝に、安佐南の本部に伺い、受付で名乗りましたが、スタッフから”八木センターに行けますか？”と尋ねられOKしたため、スタッフバスで八木サテライトに伺いました。</p> <p>3. 活動内容：八木サテライトでのトラック行先管理及び荷物の積み下ろし班のメンバーとして各作業場所へ機材を運ぶトラック（6台）の行先管理を指示され、各トラックの所在地とドライバーの連絡先を管理しました。同時に、トラックへの積み込み、積み下ろしを対応しました。</p> <p>4. 感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土業メンバーとして、八木サテライトの支援はレアケースかもしれません、この場所は現場で実際に働くボランティアの皆さんに、行先を割り当てたり、道具を配分したりと、一日中忙しく、また体力的にもきついエリアで、スタッフの人手が足りない状況でした。 ・月曜日以降も参加する様に頼まれましたが、業務の都合でお断りするしかありませんでした。 ・サテライトだけかもしれません、一番きついのは、夕方の最後の片づけの30分で、この時間は途中で帰ったスタッフも多く、人手不足の上、重量物の運搬、備品の洗浄もあり、大変な時間帯でした。最後まで残れる方は、残った方が喜ばれると感じました。 ・昼食は、各自準備です。水分は、センターで準備したペットボトルを飲んでいいと言われましたが、氷不足の現場で、現場に入るボランティアの皆さんの中で、なかなか手を出しづらく、2日目は、2リットルのペットボトルを持参しました。あと、はさみ（十得ナイフ）は、持つていけばよかったと思いました。

9/8	田中 淳 建設・森 林・環境部 門	<p>とりあえず、7:30に 安佐南区総合福祉センター1Fのボランティア受付に行ってくれ。</p> <p>この情報と他の人の報告を参考に、多少外で動ける服装で参加しました。</p> <p>配属されたのは、『ニーズ班』簡単に言えば、「ボランティアに参加したい人」と「ボランティア活動を希望する人」の電話当番です。</p> <p>他の方はすべて女性なのに荷物運びやらなくていいのか?と思いつつ 安佐南区総合福祉センター5Fへ、電話回答のマニュアルをみて、8:30電話の電源を入れスタート。</p> <p>不明な点があれば、ベテラン(3日もやればベテランらしい)に聞きつつ対応。</p> <p>基本は安田女子大の学生や教職員で対応していたがここ数日は「ボランティアを希望する人」からのクレームというか意見が多くなり人生経験の浅い彼女たちでは対処が苦しくなっているとのこと。</p> <p>ということは、ストレスに強いと認識され配属された???</p> <p>ボランティアセンターで現在受け付けているのは、土砂撤去等の生活再建の第一歩の部分です。</p> <p>いろいろな依頼があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・八木地区がひどいだろうから、今まで依頼を自粛したいたが、周囲の方も頼んでいるので電話をしてくるおばあちゃん。 ・実家に残した母親のために依頼してくる県外の息子さん。 <p>よく聞かれたのは『・〇〇曜日に来て欲しい』という要望であるが、ボランティアの派遣は当日にしかわからず、かつ、マッチングをしているのが、『ニーズ班』ではなく、何の情報もないため答える方も心苦しい。</p> <p>1日参加しただけでなんとも言えないが、情報の共有化というどこの組織でも問題となる課題である。</p> <p>困った問い合わせとしては</p> <ul style="list-style-type: none"> ・墓石を探したいんだが・・・。 ・被災とは関係ないけど、2Fのベットを1Fに移動させるなどといったボランティアは何処に聞けばいいのか? ・美容師だけど、どこかで手伝えないか? ・土砂運び以外のボランティアをしたい。 <p>現状、土砂撤去を最優先しているため、様々な問い合わせに対応できない。今後、これらのマッチングも重要ななると思われる。</p> <p>10~14時はあまり電話もならないが、この時間に増えるのが『ボランティアに参加したい人』からの問い合わせ。</p> <p>これは当日受付ということ、団体は別の申込先『広島市災害ボランティア本部』に申し込むよう伝える程度であまり苦にならない。</p> <p>現在、県外から個人の参加は断っている状態だが、「どうしても」という人も多い。</p>
-----	----------------------------	---

		<p>学生は断っていたが、ベテランに確認し、特例は過去にあることを確認の上、『広島県民と同様の活動（公共交通手段、宿泊の手配）など自分で責任をもって実施できるのであれば可能と』返答。</p> <p>状況は日々変化しているため、臨機応変に対応することが望まれているそうです。そういった判断は学生では厳しいのかなと思いました。</p> <p>15時以降は明日以降の依頼の問い合わせが増える。</p> <p>17:00丁度に電話の電源を切り終了。</p> <p>ニーズ班は土業連絡会から派遣を受けた人を非常に頼りにしています。</p> <p>外に出るのは苦手という人でも大丈夫です。</p> <p>9/12（金）も参加しますが、またテレホンアボインターとして作業して欲しいと言われました。ちなみに、老人からの電話受けがよく「あんた、いい人だね、センターの2Fにいるのかい？逢いたいね～」お褒めの言葉をいただきました。</p> <p>それ以外でも、元気をだして、手伝うからがんばってなど、一声かけることで、勇気づけられる方も多いようです。</p> <p>皆さんの参考になれば。</p>
9/13	新潟 大輔 環境部門	<p>9/13に、平成26年広島豪雨災害の土業連絡会での運営ボランティアとして、スタッフボランティアとして参加してまいりましたので、ご報告いたします。</p> <p>活動内容ですが、以前田中さんや土肥さんからご報告があったのと同様「ニーズ班」に配属されて、電話を通じてボランティア参加希望者への案内と、ボランティア要請者への対応を中心に行いました。</p> <p>前者については、私自身、現場でのボランティア経験者でしたので、ボランティア参加希望者の思いを酌みながらの案内を行えたと思いますが、同じ班に配属されたメンバーはむしろ現場未経験者が多く、対応に苦慮している場面を見受けました。</p> <p>個人的には、スタッフボランティアをしていきたいと思われる方は、一度は現場でのボランティアに参加することをオススメします。</p> <p>後者については、「床板剥ぎ」「床下への石灰撒き」「重機を使った作業」等について、ボランティアの能力を超えるとの判断から、ニーズがあってもお断りするようにミーティングで事前に取り決めがあったため、私の電話で受けられたボランティアの件数よりも、上記の理由からお断りしたボランティアの件数のほうが多いかったです。</p> <p>今後、復興が進むにつれてニーズが高度化して、現状のルールでは対応できない案件が増えていくだろうなと考えています。</p> <p>電話対応ですが、繁閑のギャップが大きく、午前中は受け付け状況と、ボランティアの参加方法について問い合わせが多く、14時半以降は明日以降の作業や、ボランティア要請の連絡が増えはじめ、16時半以降に、駆け込みでボランティアの参加方法についての問い合わせが増えるような感じです。また、電話別でも、かかるてくる頻度に差がございました。</p>

9/11	外山 涼一	9/11~9/15までの5日間、ボランティアへ行ってきました。
9/12	建設・応用理学・	当初9/11、12日の2日間の予定でしたが、土、日、休日が特に忙しいとのことで、
9/13	総技監部門	参加を要請され応じました。
9/14		ボランティアは、現地で作業をする人と、その人たちをサポートするスタッフに分かれていますが、私はスタッフとしての参加です。
9/15		スタッフのリーダーは社会福祉協議会の人たちが努めており、我々はその指示に従うというのが、基本的なスタンスです。私はマッチング班（あとでグルーピング班に改称）で活動しました。 7：30から朝礼があり、その日の注意事項などを確認します。 8：30には近くの公園に集合していたボランティアが次々に社会福祉協議会1Fの駐車場（サテライトの基地になっている）にきます。 作業は、多くのボランティア希望者を、 <ul style="list-style-type: none">・12名ずつの班に編成する。・リーダー、サブリーダーを決める。・メンバー表作成し、保険の加入状況を聞き取り、未加入の人に加入手続きをする。（名前を書くだけ、無料）・服装をチェックし、長靴（要返却）、手袋、マスク（無償）などの支給をする。・作業の手順や注意事項などを伝える。 などです。その後、現地に送り出すのですが、750人位の参加者に対して、最後の班を送り出す間に2時間くらいを要します。 我々は、送り出すまでが戦争のように忙しく、その後は割合閑になるという状況です。もし、これから参加されるなら、午前中だけで十分だと思います。 自家用車で行かれる方は、近くの古市小学校がボランティアの駐車場に開放されており、18時まで駐車できます。（基本は公共交通機関だと思いますが、駐車スペースには余裕があるし、交通の便が悪いと参加しづらいので私は2日目からは利用しました）その間、士業連絡会からは、技術士2名と司法書士1名と一緒にになりましたが、他のチームに配属された方は分かりません。一応、技術士会の腕章もつけましたが、あまりそのようなことを気にする雰囲気ではありませんでした。 災害発生直後の休日などは、最大2000人くらいが参加し、最後の班が出て行くのが14時位になったこと也有ったとのことですが、今回は前述のように750人くらいでした（基本的に作業は15時までです）。 本来なら逆になったほうが良いと考えられますが、災害直後は警察・消防・自衛隊などの捜索が広範囲に行われており、ボランティアが作業ができる範囲があまりないので人が多い、逆に作業範囲が広くなったらボランティアが少なくなっているという状況だったようです。（今は、作業箇所もかなり少なくなっているようです） マスコミの取材と思われる場面も頻繁に目撃しましたが、ボランティア作業の参加者を撮影していました。

平成26年8月20日豪雨災害 災害ボランティアセンターの対応経過

H26.12.31現在

月日	活動者数		経過
	安佐南	安佐北	
8/19(火)	—	—	夜間から翌日未明にかけて豪雨
8/20(水)	—	—	職員の安否、被害状況確認を各所属・区社協に指示 災害状況を確認し、市社協、NPOセンター、市で対応等を協議 災害ボランティア活動支援プロジェクト会議からの派遣 広島市社協災害対策本部設置 広島市災害ボランティア本部設置 *広島県は広島市の「災害救助法」適用を決定
8/21(木)	—	—	安佐南区社協に県社協職員、安佐北区社協に区社協職員を派遣 全国社会福祉協議会職員現地入り 市社協ホームページに災害ボラセン情報掲載 市災害ボランティア本部スタッフ会議開催(毎日19時から開催を確認) 古屋防災担当大臣が現地視察 湯崎県知事と松井市長が現地視察 *被災者生活再建支援法の適用を決定 *断水1,230世帯、停電約970戸、避難所29か所
8/22(金)	—	—	安佐南区災害ボランティアセンター、安佐北区災害ボランティアセンター設置 第2回広島市災害ボランティア活動連絡調整会議開催 県内市町社協職員派遣開始 *広島県が義援金の受付開始 *県営、市営住宅の無償貸出を決定 *政府が非常災害対策本部を設置
8/23(土)	849	506	ボランティア活動開始 安佐南区のサテライト(庄原産直市跡) 安佐北区のサテライト(大林小学校、三入小学校) 広島市災害ボランティア本部フェイスブック立ち上げ *広島県が災害派遣精神医療チーム(DPAT)を派遣
8/24(日)	中止	868	安佐南区災害VCに受付用電話を増設 緊急区社協事務局長会議開催(職員応援派遣体制について協議) 安佐南区災害VCの活動が雨天のため中止
8/25(月)	745	380	安佐南区災害VCの受付場所を変更(庄原産直市跡⇒安佐南区総合福祉センター) 広島市から安佐南・安佐北区災害ボラセンに連絡調整係として職員1名配置
8/26(火)	1,001	435	団体ボランティア受付用紙を公開 本部スタッフの各区災害VCの夜ミーティングへの出席を定例化 中国ブロック社協職員派遣開始 *政府の非常災害対策本部が移転(県庁⇒市役所)
8/27(水)	1,209	691	ワッペン(ボランティア・スタッフ用の目印)の使用を開始
8/28(木)	868	553	社協職員およびボランティアスタッフ増員の呼びかけ 広島市災害ボランティア本部公式ホームページ立ち上げ
8/29(金)	1,070	532	連絡調整会議各団体に土日の運営スタッフ増員を依頼

8／30(土)	2,495	770	全国の社協中核職員の派遣開始 広島市社協ホームページから公式HPへ移転 広島市から安佐南区災害VCへ応援職員として3名派遣を開始(土日祝) *内閣府、厚生労働省の職員が区災害ボランティアセンター及びサテライトを視察
8／31(日)	1,782	1,047	記者発表を定例化⇒必要に応じて実施に変更 *安佐南区の一部(長東西、山本)及び安佐北区の避難指示解除 *可部線(緑井駅～可部駅)の試運転 *西村副大臣(厚生労働省)が安佐南区サテライト視察
8月合計	10,019	5,782	15,801
9／1(月)	948	390	安佐北区災害VCが、可部東サテライト(台集会所)、ボランティア休憩所(新建集会所)を設置 広島市災害ボランティア本部移転 (市社会福祉センター⇒安佐南区総合福祉センター) ボランティア活動支援金の受付開始 *日本赤十字社が義援金の受付開始 *可部線復旧
9／2(火)	911	352	安佐南区災害VCが広島経済大学「被災地域支援ボランティア受付窓口」と打ち合わせ 第1回NPO・NGO支援連絡会議(26団体参加) *避難指示(梅林、八木、緑井)解除
9／3(水)	920	331	第3回広島市災害ボランティア活動連絡調整会議の開催 *市長が県外ボランティア受入を表明
9／4(木)	中止	中止	県外ボランティア団体の受付開始(記者発表) 第2回三者会議開催(△本部・安佐南・安佐北災害VC)⇒週1回 雨天のため、活動中止 *広島市が民間住宅の入居受付を開始
9／5(金)	694	372	県内団体受付を再開始(安佐南区) 安佐南区災害VCのマッチング機能を八木サテライトへ移管 安佐北区災害VCお掃除ボランティアの受付開始 *避難者一部移転(梅林小⇒広島共立病院旧病棟) *政府、広島土砂災害を「激甚災害」に指定 *国、県及び市で応急復旧計画を公表
9／6(土)	1,298	582	安佐南区災害VC緑井サテライト開設準備 *山谷防災担当大臣が被災地域を視察
9／7(日)	1,607	523	安佐南区災害VC緑井サテライト開所 安佐北区災害VC大林サテライト閉所 *西村副大臣(厚生労働省)が被災地域を視察 *広島市と広島県が復旧計画に関する住民説明会
9／8(月)	835	307	安佐北区災害VCの駐車場変更(元可部高校跡地⇒寺山公園) 第3回三者会議開催(△本部・安佐南・安佐北災害VC)
9／9(火)	647	244	*政府が非常災害現地対策本部を現地連絡調整室に縮小
9／10(水)	770	178	安佐南区災害VCニーズ把握会議(梅林・八木・緑井地区社協他) *広島市が被害家屋4,540軒と発表
9／11(木)	589	349	第4回広島市災害ボランティア活動連絡調整会議開催 安佐南区災害VCニーズ把握調査実施(梅林地区) *広島市が「避難対策等検証部会」を設置
9／12(金)	714	331	安佐南区災害VCニーズ把握調査実施(八木小学校) *広島市が義援金第1次分の申請受付開始
9／13(土)	801	332	第5回広島市災害ボランティア活動連絡調整会議開催 ボランティア受入の延べ人数が3万人を突破
9／14(日)	922	444	
9／15(月)	543	271	市民局長に災害VCの状況説明 *松井市長被災地視察(可部東・緑井)

広島市社会福祉協議会(2015.1.14)

9／16(火)	564	215	第4回三者会議開催(Ⅴ本部・安佐南・安佐北災害 VC) 第6回広島市災害ボランティア活動連絡調整会議開催 翌日のボランティア受け入れ人数をフェイスブックに掲載開始
9／17(水)	644	253	第2回NPO・NGO支援連絡会議(34団体参加) *厚労省政務官視察(八木サテライト)
9／18(木)	526	270	安佐北区災害 VC と Ⅴ本部情報共有の協議 安佐南区災害 VC と Ⅴ本部情報共有の協議 市・区社協臨時事務局長会議
9／19(金)	410	228	*高速道路無料措置、12月23日まで延長決定
9／20(土)	671	221	第5回三者会議開催(Ⅴ本部・安佐南・安佐北災害 VC)
9／21(日)	745	222	佐東出張所で河川課とニーズすりあわせ協議
9／22(月)	454	195	第6回三者会議開催(Ⅴ本部・安佐南・安佐北災害 VC)
9／23(火)	436	214	台風のため、9月24日、25日のボランティア活動中止決定
9／24(水)	中止	中止	緑井墓苑の作業中止指示 土のう撤去のボランティア調整について、河川課と協議
9／25(木)	中止	中止	第7回三者会議開催(Ⅴ本部・安佐南・安佐北災害 VC)
9／26(金)	267	211	県社協へ県内市町社協職員派遣要請(10月からの体制移行に伴い2枠派遣)
9／27(土)	481	133	第8回三者会議開催(Ⅴ本部・安佐南・安佐北災害 VC) ボランティア受入の延べ人数が4万人を突破
9／28(日)	404	152	第7回広島市災害ボランティア活動連絡調整会議開催
9／29(月)	198	147	第9回三者会議開催(Ⅴ本部・安佐南・安佐北災害 VC) 10月以降の体制移行発表(復興連携センターへの移行) 市長表敬訪問(市社協会長・安佐南区・安佐北区社協会長・NPOセンター長)
9／30(火)	230	175	安佐南区災害 VC 八木サテライト閉所 第3回NPO・NGO支援連絡会議
9月合計	18,229	7,649	25,878
10／1(水)	—	—	広島市復興連携本部・安佐南区・安佐北区復興連携センターへの移行 (10/1~3 移行準備)
10／2(木)	—	—	
10／3(金)	—	10	
10／4(土)	199	75	復興連携センターでのボランティア受付開始 土日:土砂出し等 平日:生活支援中心
10／5(日)	中止	中止	台風の影響により活動中止
10／6(月)	—	2	緑井墓苑での活動支援の検討(ボランティア活動保険の受け入れを柔軟に対応検討) NPO・NGO支援連絡会議(生活支援活動団体)
10／7(火)	—	—	移行後第1回三者会議開催(本部・安佐南区・安佐北区) *広島市が「平成26年8月20日豪雨災害復興まちづくり本部」設置
10／8(水)	—	—	
10／9(木)	—	2	
10／10(金)	—	4	
10／11(土)	173	89	復興連携センターでのボランティア受付

(2) 被災者相談活動

被災住民の復旧・生活再建に対するさまざまな困りごとに士業連絡会の専門家が応じる相談活動として、避難所・集会所におけるよろず相談会、自治会意見交換会に参加した。

① 避難所・集会所によるよろず相談会

8月31日に士業連絡会のうち、ボランティア受け入れ支援活動を進めた5士業（弁護士、行政書士、社会福祉士、介護福祉士、技術士）が集まり、「士業よろず巡回相談」を行うことを決め、調整会議の了解のもとに9月3日から避難所で相談活動を開始した。3つの避難所と2つの集会所において、被災住民に対するよろず相談会に参加した。

表4-3 避難所・集会所におけるよろず相談会への参加状況

開催日	開催場所	相談員	相談内容
9/3(水)	可部小学校 三入中学校	・司法書士1名 ・技術士1名 古川智	○安佐北区の2つの避難所で「士業よろず巡回相談」を開始 ・土砂災害防止法関連の相談
9/5(金)	緑井小学校	・弁護士1名 ・司法書士1名 ・社会福祉士1名 ・技術士2名 古川智、濱田弘治	○安佐南区の避難所での巡回相談 ・災害復旧工事と所有地 ・家屋に倒れかけた電柱撤去 ・引越し運搬のために道路復旧
9/14(日)	新建自治会 集会所	・弁護士15名 ・司法書士3名 ・社会福祉士1名 ・税理士1名 ・土地家屋調査士1名 ・建築士2名 ・技術士2名 古川智、山下祐一 (合計26名)	○安佐北区可部東6丁目新建自治会からの要請による「土砂災害についての被災住民の相談会」 ・相談件数25件 ・復旧工事と費用負担の問題:12件 ・土砂撤去:6件 ・り災証明:6件 ・応急修理:2件 ・その他
10/19(日)	八敷会館	・弁護士4名 ・司法書士1名 ・社会福祉士1名 ・土地家屋調査士1名 ・社会保険労務士1名 ・技術士1名 古川智	○「安佐南区緑井7丁目の被災者へのよろず相談会」 ・土砂災害対策工事の効果 ・土砂災害防止法関連の相談



写真・8 新建自治会集会所でのよろず相談会

主催 広島県災害復興支援士業連絡会

よろず相談会

場所 八敷会館

平成26年10月19日（日）

午後1時30分～午後3時30分

さまざまな困りごとに

士業連絡会の専門家(弁護士・技術士等)が応じます

予約不要
相談無料

お気軽に
ご相談ください



お問い合わせは… 士業連絡会事務局
050-3381-1397 法テラス広島(担当:川嶋, 工藤)

広島県災害復興支援士業連絡会は以下の団体で構成されています

広島弁護士会
広島県介護福祉士会
広島県建築士会
広島県土地家屋調査士会
海事代理士会

広島司法書士会
日本技術士会中国本部
広島県社会保険労務士会
広島県不動産鑑定士会
日本司法支援センター広島地方事務所

広島県社会福祉士会
広島県行政書士会
中国税理士会広島県西部支部連合会
広島県精神福祉保健福祉士協会

② 自治会意見交換会

安佐北区可部東6丁目の新建自治会では、被災住民の復旧工事・土砂災害対策工事等の行政への要望をとりまとめるため、士業連絡会の専門家への支援要請があり技術士会が対応した。

安佐南区八木3丁目、4丁目の八木ヶ丘町内会、阿武の里町内会、山手町内会、八木住宅町内会では、これから防災対策について勉強会を開催したいとの要望が、災害ボランティア団体「広島土砂災害コミュニティサポート」から士業連絡会にあり、技術士会は講師として参加した。なお、「広島土砂災害コミュニティサポート」は、安佐南区社会福祉協議会の登録ボランティア団体であり、安佐南区災害ボランティアセンター等でボランティア活動をしていたメンバーが設立し、被災者支援を実施している。

表4-4 自治会への支援活動状況

開催日	開催場所	相談員	相談内容
9/14(日) 17:00～ 19:00	新建自治会 集会所	・弁護士15名 ・司法書士3名 ・社会福祉士1名 ・土地家屋調査士1名 ・建築士2名 ・技術士3名 古川智、山下祐一、 亀田雄二	○「土砂災害についての自治会役員との意見交換会」 ・技術士会から土砂災害警戒区域・土砂流出域図、学会緊急調査報告書を配布説明 ・復興まちづくり協議会の重要性助言 
10/5(日) 14:00～ 17:00	新建自治会 集会所	・弁護士1名 ・介護福祉士1名 ・技術士1名 古川智	○「土砂災害についての自治会理事との意見交換会」 ・復旧工事・土砂災害対策工事等の行政への要望 ・土砂災害防止法関連の相談
11/2(日) 14:00～ 17:00	新建自治会 集会所	・弁護士 ・技術士3名 古川智、山下祐一 青原啓詞	○「行政からの砂防工事説明会と自治会との意見交換会」 ・復旧工事等の行政への要望 ・土砂災害防止法関連の相談
11/16(日) 13:30～ 15:30	八木ヶ丘 集会所	弁護士1名参加 ・技術士4名参加 古川智、山下祐一 青原啓詞、中井真司	○「八木3丁目、4丁目の八木ヶ丘町内会、阿武の里町内会、山手町内会、八木住宅町内会との勉強会」 ・「これから防災対策の勉強会」 以下の講演 ①今回の土石流発生のメカニズムについて(中井) ②土石流防災対策について(山下) ③警戒・避難(青原) ・意見交換会

行政からの説明会における被災住民 からの質問&意見：八木3丁目町内会

1. 砂防ダムについて

- ・砂防ダムの位置と数は適切か？
- ・砂防ダムの強度、構造、安全性は大丈夫か？
- ・砂防ダムの管理はどうするのか？
- ・砂防ダム工事用の道路はどこに作るのか？

2. 雨水処理・河川改修について

- ・下流の川幅が狭く、河川の流下能力に問題があるのではないか？
- ・道路が河川になって家から出られなかつたので、雨水処理はどうするのが良いか？
- ・下流河川が氾濫したので、上流に調整池を作る必要があるのではないか？

3. 自主避難について

- ・公的な避難所が遠いので、自宅の近くに一時避難所をつくれないか？
- ・道路が川になっている状態で安全に避難する方法はどうしたら良いのか？

Q1 強靭ワイヤーネット工の取り付け場所は？

Q2 砂防ダムは無鉄筋と聞くが、見直されるのか？

Q3 砂防ダムの土砂がたまつたら、簡単に出せるのか？

Q4 下流域は砂防ダムより、水を処理し水を流すことが重要だ

Q5 あの時、道が川になり避難したら二次被害に遭う。水を上流で処理すべきだ。

Q6 ワイアーセンサーのサイレンが鳴ってから、避難するまでどれくらいの余裕があるのか？

Q7 室屋会館を町内会に相談なく避難所指定を外した理由は何か？

Q8 高齢者は避難所に指定されている梅林小まで避難できない。今回被害の無かつた近くの会館に避難するのが安全。

Q9 山手川は、上流より下流の方が狭いので氾濫したのではないか？

Q10 河川の管理は、誰がしているのか？

Q11 道路の水はけが悪い。道路に側溝がない。道路が川の役目をしているので、改善して欲しい。

Q12 1ha 以上の開発には調整池が必要だ。調整池をつくれないか？

Q13 国交省は砂防ダムを作つておしまいでは困る。砂防ダムの管理が重要で、管理は誰がやるのか？

Q14 砂防ダムの計画地点以外で土石流の危険性はないのか？

Q15 砂防ダムに管理の為の作業用道路を作るのか？ 管理計画内容は？

Q16 砂防ダムの工事用の道路はどこに作るのか？ 道路の構造は？

Q17 高齢者に配慮して一時避難所を家の近くに作れないか？

Q18 町内の集会所を鉄筋のビルに建て替え避難所兼地域の交流の場に出来ないか？

4.3 復興期の対応

(1) 復興まちづくり支援

平成 26 年 12 月 2 日に広島市の豪雨災害復興まちづくり本部から、平成 26 年 8 月 20 日豪雨災害復興まちづくりビジョン案（第 1 版）が公表され、被災住民への説明会が開催された。

このため、土業連絡会には安佐北区可部東 6 丁目の新建自治会から復興まちづくりについて、行政への要望をまとめるまでの支援要請があり、自治会との意見交換会に参加した。また、安佐南区においては、八木 4 丁目阿武の里町内会と広島市との意見交換会に参加した。

表 4・5 自治会への支援活動状況

開催日	開催場所	相談員	相談内容
12/14(日) 13:00～ 16:00	新建自治会 集会所	・弁護士 ・技術士3名 古川智、山下祐一 青原啓詞	○「土砂災害について自治会役員と意見交換会」 ・復旧工事・土砂災害対策工事等の行政への要望
H27年 1/17(土) 10:00～	安佐北区総 合福祉セン ター	・弁護士1名 ・技術士2名 古川智、山下祐一	○復興まちづくり計画に関する意見交換会 ・広島市復興まちづくり担当と安佐北区可部東地 区住民との意見交換会に参加
1/17(土) 15:00～ 17:00	梅林集会所	・弁護士 ・技術士3名 古川智、山下祐一 青原啓詞	○復興まちづくり計画に関する意見交換会 ・広島市復興まちづくり担当と安佐南区八木4丁目 阿武の里町内会住民との意見交換会に参加

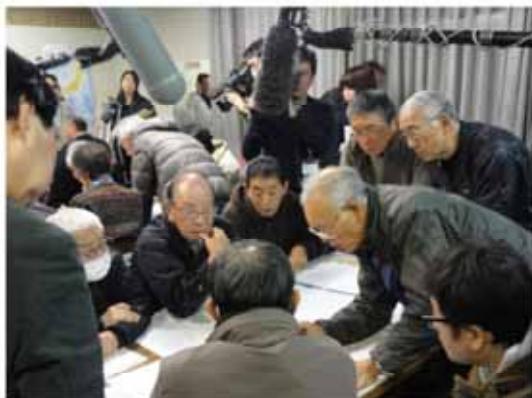
(2) 警戒避難体制支援

梅林学区自主防災会連合会（安佐南区八木2丁目・4丁目、緑井7丁目・8丁目）では、自主防災体制の強化が課題となり、警戒・避難対策や緊急時の連絡体制の確立、特に地域の防災マップづくりに取り組む必要性が指摘され、自主防災講座を開催することとなった。このため、災害ボランティア団体「広島土砂災害コミュニティサポート」から士業連絡会に対し、企画段階からの支援要請があり、技術士会と建設コンサルタンツ協会が支援を進めた。

自主防災講座は、自然災害から生命・身体・財産等を守るために、災害による被害を未然に防止し、最小限に軽減するために、自分の住む町の災害、危険性を知り、災害発生の可能性がある時、また災害が発生したときに、どのような行動をとるか、事前にどのような場所へどのようなルートを通って避難すればよいかを地域で考え、知り、防災知識や防災意識を高めていくことを目的としている。したがって、本講座は、防災マップ作成の過程から地域住民が主体的に関わり、単に行政や専門家によって作られた防災マップに従うのではなく、地域住民による緊急時に有効なマップづくりをめざしている。

表 4-6 梅林学区自主防災会連合会の自主防災講座への支援活動状況

開催日	開催場所	相談員	相談内容
12/23(火) 13:30～ 16:00	八木4丁目	・中国本部技術士会 防災委員会 ・建設コンサルタンツ協会 中国支部防災委員会 古川智、山下祐一 青原啓詞	○自主防災講座(防災マップの作成)の企画案協議 ・1月～5月に5回講座を開催し、技術士会と建コンで指導 ・住民の現地調査を重視 ・土砂流出エリアの表示(被害実績を調査) ・土砂災害警戒区域、特別警戒区域の表示(3月に指定予定) ・避難場所(住民が決める一時退避場所・退避施設)、避難経路の検討
1/11(日) 18:00～ 21:00	八木4丁目	・中国本部技術士会 防災委員会 ・建設コンサルタンツ協会 中国支部防災委員会 古川智、山下祐一 青原啓詞	○自主防災講座(防災地図の作成)の第1回講座企画案協議 ・1月17日(土)の第1回講座のプログラムを決定
1/17(土) 15:00～ 17:00	梅林集会所	・弁護士 ・技術士3名 古川智、山下祐一 青原啓詞	○第1回梅林学区自主防災講座 ①座学 「土石流発生のメカニズムについて」 「警戒・避難について」 ②防災マップ作成について ③ 緊急時の連絡体制について ④ 慰霊碑の建立について



写真・9 1/17 第1回梅林学区自主防災講座

自主防災講座は、今後、以下の予定で防災マップづくりを予定しており、引き続き支援を行う。

表 4-7 梅林学区自主防災会連合会の自主防災講座の予定

回数	開催日	活動内容
第2回	2/15（日） 9:30～15:00	9:30～9:45 主催者挨拶(緊急時の連絡体制と慰霊碑の建立について) 9:45～10:15 防災マップ作成についての事前学習 (作業内容の再確認) 10:15～12:00 定められた担当ブロック内のフィールド調査 12:00～13:00 各自で昼食および梅林集会所へ移動 13:00～14:30 防災マップ作成作業 『梅林集会所』 14:30～15:00 課題等の意見交換
第3回	4月	①座学:自主避難の判断基準、特別警戒区域(レットゾーン)・警戒区域(イエローゾーン) ②フィールド調査:現地の危険個所を確認・記録、一時退避場所・退避施設・避難場所・避難経路の確認。(一時退避場所・退避施設所有者の合意を得ること)
第4回	4月	①座学:フィールド調査結果の発表と課題について意見交換 ②フィールド調査:住民参加で現地の危険個所を確認、一時退避場所・退避施設・避難場所・避難経路の確認。
第5回	5月	①座学:防災マップの仕上げ作業、課題について意見交換 ②フィールド調査:課題地域の補足調査
	6月	防災訓練の実施

防災マップ作成実施要領（防災マップ作成の流れ）

①自分の担当する区域を確認する。

1/2500 の地図をベースとする。全体を A 0 版、各ブロックを A 3 版の大きさにまとめる。

- ・ 1 ブロック：八木ヶ丘町内会、梅林県営住宅自治会、室屋町内会、ヴェルディ八木 1 号館、ヴェルディ八木 2 号館、八木パークハウス桜通り自治会、「山手町内会」
- ・ 2 ブロック：阿武の里自治会、八木住宅自治会、上楽地町内会、市土居町内会、フローレンス
- ・ 3 ブロック：小原山自治会、県営緑ヶ丘住宅自治会、梅林台自治会、小原自治会、上市の坪自治会、八木ツインコーポ自治会、第一市の坪自治会、第二市の坪自治会
- ・ 4 ブロック：(上組町内会)
- ・ 5 ブロック：(八敷福祉会)
- ・ 6 ブロック：(松原福祉会)

②危険個所を地図にプロットする。

- ・ 土石流特別警戒区域
- ・ 急傾斜地警戒区域、特別警戒区域
- ・ 洪水浸水深（2~5m、1~2m、0.5~1m、0.5m未満）

③一時退避場所、退避施設、避難場所を地図にプロットする（資料-3）

- ・ 広島市が指定している避難場所（洪水：緑○、土砂災害：緑△）
- ・ 協定を結んでいる退避施設（洪水：赤○、土砂災害：赤△）
- ・ 我々が地域で決める一時退避場所（洪水：黄○、土砂災害：黄△）
(地域ごとに所有者の合意を得ること。)

④避難経路を地図にプロットする

- ・ できるだけ、広い道を選ぶ。
- ・ 土石流特別警戒区域の下流を避ける。
- ・ 雨が降った時あふれたことのある水路をチェックする。
- ・ 夜、大雨が降っている時に安全に移動できるか。
- ・ 街燈はあるか。
- ・ 道の段差はないか。
- ・ ガードレールが設置されているか。

⑤緊急時の連絡先を一覧表にまとめる

- ・ 区役所、消防署、警察署、自治会関係者、病院、電気、水道、ガス

⑥気象情報等の入手先をまとめる

- ・ 広島県防災Web
- ・ 降水量、河川水位
- ・ 日本気象協会ホームページ
警報・注意報、雨雲レーダー、天気予報
- ・ 国土交通省 X R A I N
雨雲レーダー（詳細）

4.4 支援活動報告

これまでの防災・減災教育と今後の課題

広島県 建設部門

古川 智

中電技術コンサルタント（株）



中国本部防災委員会の 16 名のうち 5 名は、（一社）建設コンサルタツ協会中国支部の防災委員会（以後、建コン防災委員会と呼ぶ）の委員を兼ねている。建コン防災委員会では、6.29 災害後の平成 17 年から主に広島市内の小・中学校と公民館において、土砂災害を対象とした防災教育を 9 年間実施してきた。防災教育は、土砂災害多発地域における防災力の向上を目的とし、若い世代からの防災意識の底上げと高齢者への意識啓発をねらいとしてきた。これまでに、小学校 9 校、中学校 6 校、公民館 12 館において、その地域の危険箇所や避難所等の事前調査を行い、地域特性を取り入れて土砂災害の概要、警戒・避難等の座学を行うとともに、自宅・危険箇所・避難所・避難経路の確認をハザードマップ作成演習により実施してきた。特に、地域特性を取り入れた教材とハザードマップ作成演習は、自宅が土砂災害危険箇所に含まれているかどうか、避難所までの最適な経路はどこか

を初めて知る機会となっている。

今回の災害を受け、さらに今後取り組むべき課題を以下にまとめる。

- ・建コン防災委員会ではこれまで年間目標として、小学校 1 校、中学校 1 校、公民館 2 館を目標として活動しているが、残念ながら今回災害のあった安佐南区八木・緑井地区、安佐北区可部東 6 丁目等では、これまでに防災教育を実施できていない。このため、中国本部防災委員会も建コン防災委員会と連携して防災教育の開催頻度を増やすことを考えたい。

- ・今回のように未明に発生した災害では、警戒・避難の困難さが浮き彫りとなったが、今後の防災教育ではこの点を教訓として整理して、早期避難や垂直避難の重要性を強調したい。

- ・ハザードマップ作成用のベースマップを、最新の地形図へ更新し、土砂災害警戒区域指定等を追加する必要がある。



防災教育を行った場所

- | | |
|-------|---|
| 平成17年 | ①湯来中学校
②己斐公民館
③高陽公民館 |
| 平成18年 | ④三和中学校 |
| 平成19年 | ⑤安佐北公民館
⑥湯来東小学校
⑦清和中学校 |
| 平成20年 | ⑧戸坂公民館
⑨亀山公民館
⑩五日市西小学校
⑪五日市観音中学校 |
| 平成21年 | ⑫己斐上小学校
⑬己斐上中学校 |
| 平成22年 | ⑭黄金山公民館
⑮伴小学校
⑯伴中学校 |
| 平成23年 | ⑰双葉公民館
⑲三穂公民館
⑳安佐中学校
㉑安東小学校 |
| 平成24年 | ㉒安西小学校 |
| 平成25年 | ㉓可部南小学校
㉔船越公民館 |

8.20 広島土砂災害後の被災者支援

広島県 建設・応用理学・総合監理門

山下 祐一
一山コンサルタント



1. はじめに

平成 26 年 8 月 20 日未明、広島市安佐南区と安佐北区に豪雨が集中し、大規模な土砂災害が発生した。この災害により、死者 74 人、負傷者 44 人、全・半壊家屋 361 戸、床上・床下浸水 4,246 戸という甚大な被害に及んだ。この大規模土砂災害の発生後、日本技術士会中国本部(以下技術士会といふ)が加盟している「広島県災害復興支援士業連絡会(以下士業連絡会といふ)」が災害支援を決め、その活動として被災者支援に関係することができた。被災者支援として、ボランティア活動の事務局、運営、管理及び被災者に向けたよろず相談の実施である。被災者支援のうち、安佐北区可部東 6 丁目の新建自治会、安佐南区の梅林学区自主防災会の被災者支援は技術士としての支援活動ができたと考えている。災害発生後、これまで直接被災者に対する支援をする機会がなかったが、今回士業連絡会を通じてはじめて活動することができたので、その内容について報告する。

2. 士業連絡会とは

士業連絡会は、平成 23 年 3 月の東日本大震災を受け、広島県内の民間の専門家団体が、それぞれの専門分野の知識を集約し、相互に連携して広島県内に避難した被災者らへの各種相談やカウンセリングなどを実施する目的で発足している。参加団体は、広島弁護士会、広島司法書士会など士業として活動している 14 団体(事務局は広島弁護士会)であり、その中に技術士会も参加している。士業連絡会では、最近新たな災害が発生した場合の即時対応ができるように支援方法を検討中であり、

広島県との災害協定締結の検討中に広島土砂災害が発生した。

士業連絡会は、広島土砂災害発生後広島市災害ボランティア活動連絡調整会議に参加し、ボランティア活動の事務局、運営、管理に対応した。また、よろず相談、すなわち被災者からの直接の相談にも対応した。士業連絡会の各士業の専門性を活かした支援として、主に「法律系」、「福祉系」、「技術系」の各士業が担当した。士業連絡会は広島弁護士会が事務局をしており、被災者も弁護士への信頼が高く、直接の相談事も多く寄せられた。その相談内容について技術的な問題や課題については技術士会にも同席を求められ、被災者や被災者グループから直接相談を受けることにもなった。技術士会ではこれまで単独で被災者からの相談はなかったが、士業連絡会は多様な質問や相談にも応じることができることができた。士業連絡会との連携は今後も重要なと考えられる。

3. 新建自治会での被災者支援

3-1 平成 26 年 9 月 14 日のよろず相談会

被災地の安佐北区可部東 6 丁目の新建自治会から、士業連絡会に対して個人の個別相談



写真-1 士業連絡会による個別相談の様子

と自治会としての今後の取組みについての相談が寄せられた。9月14日、新建自治会集会所に弁護士15名、司法書士3名、技術士3名、社会福祉士、土地家屋調査士など合計26名が集まり「よろず相談会」に対応した。

まず、被災地の現地視察後、弁護士を中心とした個別相談が行われた。個人の相談には相談者に対して弁護士など2人の専門士業で相談に応じ、内容も記録された(写真-1)。個別相談は25件あり、その内容は次のとおりである。

- ・復旧工事と費用負担の問題(12件)
- ・土砂撤去(6件)　　・り災証明(6件)
- ・応急修理(2件)　　・消毒(2件)など

技術士会は災害後の擁壁の安全性について対応したが、擁壁等の構造物の相談は数件あった。相談内容を見ると技術士として相談に応じできるものも数多くあり、被災地の支援もある程度できることを学んだ。

次に、今後の復興の取組みについて、まず阪神大震災や東日本大震災で復興まちづくりにかかわった専門家による今後の進め方についての概要説明があった。次に、技術士会から今回の土砂災害の実態と土砂災害防止法による危険地域の設定について説明を行った。



写真-2 今後の復興についての意見交換

その後、全員による意見交換を行った(写真-2)。今後の復興にあたり自治会としてまとめた対応を行うことや、自治会名簿の作成や自治会の様々な意見をくみ上げてまとめておくことの重要性が指摘された。さらに、今後

広島県や広島市から復興計画についての提案があれば、士業連絡会としてその相談にも応じることとなり、士業連絡会の活動に技術士会としてもかかわることとなった。

3-2 11月2日の応急復旧工事説明会

その後も、新建自治会から士業連絡会にいろいろ相談を受け、それに回答することで信頼関係は高まったようである。11月2日には応急復旧対策工事について、広島県、広島市から説明があった(写真-3)。そこに士業連絡



写真-3 応急復旧対策工事説明会

会も質疑とで不明な点があれば支援するということで参加した。応急復旧工事の内容は砂防堰堤や治山堰堤を中心に、住民への直接の影響は工事用道路の確保と工事用車両による安全性やほこりの問題であり、質疑はなされたものの特に問題ではなく説明会は終了した。

3-3 12月14日のよろず相談

最初に住民からの質問に答える形で、建物再建や土地収用の制度について弁護士からの説明や質疑応答があった。その後、新建自治会で応急復旧の問題点や今後の復興まちづくりについて住民にアンケートした結果の内容とりまとめ相談があった。また、12月2日には広島市が復興まちづくりビジョンを発表しており、その内容についても意見交換があった(写真-4)。

災害発生から4ヶ月経過した時点での応急復旧工事や復興まちづくりのアンケートの要望の主なものは次の通りであった。



写真-4 住民アンケート結果等の相談、意見交換

- ・工事用道路の舗装、安全性、私道を市道に
- ・河川の応急復旧工事及びフェンスの設置
- ・自然・景観に配慮した河川整備
- ・避難所の設置及び避難経路(橋)の整備
- ・公園の復旧と街灯の整備
- ・防災放送塔の設置と防災メールシステムの整備

応急復旧工事でどこまでできるのか、それぞれの自治会の班ごとに詳しく調べて整理もされていた。これらの要望について技術的な質問への回答、今後のまちづくりに生かせるかどうかの意見交換が行われた。技術に関する質問には技術士としての回答を行った。これまでにもこの自治会で検討してきたことの整理が行われており、まちづくりに関して基本から考え直す必要はなく、この地区のまとまりの良さがうかがえた。

その後も土業連絡会としていろいろな疑問や課題について相談にのることで、新建自治会は早めのまちづくりが行われることが想定される。

4. 梅林学区での被災者支援

4-1 11月16日「防災対策の勉強会」

安佐南区八木地区の災害被災場所は、災害の規模も大きく、たくさんの町内会があり、今後の対応を考える場合、どのようにまとまっていくかも課題と考えられていた。安佐南区社会福祉協議会の登録団体「広島土砂災害コミュニティサポート(以下コミサボとい

う)」は被災者の生活の困りごとや復興の手伝いを中心とした活動を行う団体である。コミサボは、国土交通省のある町内会の説明会で住民から出された質問・意見を整理し、土業連絡会に「防災対策の勉強会」の実施について相談を寄せた。その勉強会を技術士会が対応することとなった。

被災住民から出された質問・意見について、項目として整理すると次のとおりである。

1)砂防堰堤について

- ・砂防堰堤の位置、数、強度、構造、安全性
- ・砂防堰堤の管理(満砂の対応、管理者)
- ・砂防堰堤の計画地点以外の災害危険性
- ・砂防堰堤の工事用道路の位置と構造
- ・強韌ワイヤーネット

2)雨水処理・河川改修

- ・大雨時の雨水処理(道路に水が流れる)
- ・川幅・流下能力の問題
- ・水はけ、側溝の処理
- ・調整池の整備

3)警戒・避難

- ・大雨時の安全な避難方法
- ・サイレン発信後の避難余裕時間
- ・遠い公的な避難所対策の一時避難所
- ・高齢者に配慮した一時避難所
- ・集会所の構造強化策

これを受けて防災対策の勉強会が開催された。主催は八木ヶ丘町内会、阿武の里町内会、山手町町内会、八木住宅町内会の4つの町内会、協力は土業連絡会、コミサボであり、場



写真-5 八木ヶ丘集会所での勉強会

所は八木ヶ丘集会所で開催された(写真一5、写真一6)。

防災対策の勉強会は、次のプログラムで行った。

- 1)「今回の土石流の発生メカニズムについて」
 - ・土石流とは
 - ・広島豪雨災害の概要
 - ・地形地質的特徴
- 2)「土石流防災対策について」
 - ・最近の土石流防災対策事例
- 3)「警戒・避難について」
 - ・広島市の基準雨量
 - ・ハザードマップ作成事例
- 4)「災害復興支援に関する弁護士の役割」



写真-6 防災対策の勉強会の説明

その後、砂防堰堤のハード面からの質問から、「どのように自分の身を守って行くのか」といった質問まで時間いっぱい質問された。特に、大雨時にどこに避難したらよいか町内会で検討したいという町内会長さんの言葉に、技術士会はできるだけ協力することとなった。

4-2 梅林学区の防災マップの作成

4-2-1 防災マップ作成準備

八木ヶ丘集会所で実施した防災対策の勉強会で、避難あるいは避難場所に対する課題がクローズアップされた。その後避難するためのハザードマップ作りを梅林地区自主防災会が取り組むことになった。梅林地区は、安佐南区緑井7丁目、8丁目、八木3丁目、4丁目の広島土砂災害で最も被害を受けた地域で

ある。

梅林地区自主防災会は、被災した各町内会が自主防災体制の強化を課題として取り上げ、警戒・避難対策や緊急時の連絡体制の確立、特に地域の防災マップ作成に取り組むことが必要と判断した。

防災マップの作成の目的は、自分の住む町の災害や危険性を知り、災害発生の可能性がある時、また災害が発生した時に、どのような行動をとるか、事前にどのような場所へどのようなルートを通って避難すればよいかを地域で考え、知り、防災知識や防災意識を高めていくこととした。

また、防災マップの作成は、地域住民が主体的に関わることを特色として、緊急時に有効なマップ作りを目指すこととした。防災マップ作成による期待される効果は次のとおりである。

- ・町内会の自主防災体制が強化される
- ・地域住民が主体的に関わることにより、防災意識・知識が向上する。
- ・緊急時において、有効に活用することが可能な防災マップが作成される。

防災マップ作成の準備として、各町内会や渓流の流域を考えて、6つのブロックに分けるとともに、土砂災害と浸水区域が対象となった。事前に、防災マップ作成の方法について、梅林地区自主防災会の役員の方に説明した(写真-7)。図面(1/2500)の準備も白地図、特別警戒区域・浸水区域図、避難所、一時退



写真-7 防災マップ作成事前打ち合わせ

避所、避難経路図及び住宅地図の4つを準備することとした。

4-2-2 第1回梅林学区自主防災会対策会議

平成27年1月17日に、安佐南区梅林集会所において、第1回梅林学区自主防災会対策会議(自主防災講座)が開催された。主催は梅林学区自主防災会連合会、共催は梅林学区社会福祉協議会、協力は広島市安佐南区役所、安佐南消防署、土業連絡会、日本技術士会、建設コンサルタンツ協会、コミサポであった。

自主防災講座のプログラムは次のとおりである。

1)主催者あいさつ

2)講座

- ・今回の土石流発生のメカニズムについて
- ・警戒・避難について

3)防災マップ作成について

- ・防災マップの作成要領について
- ・地域ブロック図の作成
- ・ブロック別の役割分担

4)緊急時の連絡体制について

5)慰靈碑の建立について

6)次回の自主防災講座について

このうち、技術士会は2)講座、3)防災マップ作成について、6)次回の自主防災講座についてを担当した。



写真-8 主催者あいさつ(自主防災連合会会長)

1)主催者あいさつでは、自主防災会連合会長のあいさつとともに、安佐南消防署及び技術士会防災委員長から、これまでの経緯や目

的などが説明された(写真-8)。

2)講座は、4-1で行った「防災対策の勉強会」で話した内容について、今回防災マップ作成の区域が被害のあった範囲に広がったため、技術士会で改めてもう一度、土石流メカニズムと警戒避難について説明を行った。

3)防災マップ作成では、今回6つのブロックに分かれて防災マップを作成することから、各ブロックから6名の担当者に参加した。

まず次のような防災マップ作成手順についてその内容を説明した。

- ・担当区域の確認(本日の作業)
- ・危険箇所を地図にプロットする
- ・避難所、退避所、避難場所をプロットする
- ・避難経路をプロットする
- ・緊急時の連絡先をまとめる
- ・気象情報の入手先をまとめる



写真-9 ブロック境界修正作業

次に、6つのブロックの境界を明らかにするために、事前に引いた境界線の修正を行った。各町内会がどこで分かれるのか地図上で作業を行った(写真-9)。また、各ブロック6名の参加者で今後作業する役割分担、すなわちブロックの責任者、準備・連絡担当、写真担当、記録・とりまとめ担当などを決めていただいた。

6)次回の自主防災講座では今後のスケジュールを説明した。第2回は2月15日を行い、その後4月に2回、5月に1回の合計5回の講座を開催し、6月にはそれに基づいた避難

訓練をする予定としている。

2月15日は各ブロックからさらに参加者を増やしながら、住民と一緒に危険個所、避難経路、地域独自の一時避難所、避難施設、避難場所等を現地確認し、現地から帰って各ブロックごとに整理する予定としている。このように、梅林地区では防災マップが計画通りできるよう今後も支援する予定である。

5. おわりに

平成26年8月20日未明に発生した広島土砂災害は広島市安佐南区と安佐北区に集中した豪雨により、甚大な被害が発生した。その被害状況から、技術士会が加盟している土業連絡会は被災者支援を行うことを決め、当初から広島市災害ボランティア活動連絡調整会議に参加し、ボランティアの受け入れ、運営、管理の支援を行った。その後、土業連絡会は災害の被災者へのよろず相談に応じ、弁護士をはじめそれぞれの土業の方が対応するとともに、技術士会も技術的なサポートを行うこととなった。

技術士会がよろず相談に参加した地区は、安佐北区の可部東6丁目の新建自治会、安佐南区緑井7、8丁目、八木3、4丁目の梅林学区自主防災会連合会である。

新建自治会は、9月14日の個人相談と災害後の自治会の対応についての説明等から支援が始まり、応急復旧対策説明会、自治会でアンケート調査した結果に対する相談、復興まちづくりビジョンへの対応等を行ってきた。災害発生のがれき処理問題から始まる個人の問題、応急復旧工事による安全の確保や今後の工事の問題点、地域住民の要望等を整理し、自治会としての災害後の対応がスムーズに運んでいる様子がうかがえる。今後も、いろんな相談にも対応することとなるが、技術士会としての活動も時間とともに変化することが予想される。

梅林学区自主防災会への支援は、最初の対応が11月16日と新建自治会とはかなり遅れ

て始まっている。この地区は今回の災害で死者64名を出した地区で、災害後の対応も時間がかかることが予想された。まず、被災住民から出された質問・意見をまとめたコミサポから土業連絡会を通じて、技術士会で行った「防災対策の勉強会」から始まった。この講座で、土石流のメカニズム、土石流防災対策、警戒避難について説明したが、特に警戒避難について関心が高く、今後の大暴雨時どう避難するか町内会としても大きな課題であることが分かった。その課題に対して技術士会も支援することとした。

この講座を受けて、梅林学区自主防災会は安全に避難するための自分たちでつくる防災マップ作成を技術士会が支援することになった。防災マップ作成は1月17日に防災マップ作成手順を説明したばかりである。6月までには防災マップを完成させ、梅雨前には避難訓練を行うことを計画している。それが計画通りできるよう今後も支援を続ける予定である。

今回の災害で技術士会としても始めて被災者への直接支援を行うことができた。これは、土業連絡会という弁護士をはじめ土業の方が災害支援を連携して対応したこと、土業連絡会に対する住民や行政の信頼も生まれたことによるものと思われる。技術士会としても、いろいろな技術的相談に乗るうちに、それなりの技術的信頼が生まれ、梅林地区では住民でつくる防災マップ作成を指導、支援することに結び付いたと考えられる。今後も地域住民の支援ができるよう、技術士会内や土業連絡会との連携を進めたいものである。

8.20 広島豪雨災害後の防災教育活動

広島県 応用理学部門

青原啓詞

(株)ヒロコン



1. はじめに

防災委員会では、建設コンサルタント協会中国支部防災委員会と協力して広島市を中心とした地域の小中学生と高齢者を対象とした防災教育を行っている。本年は8月20日に広島豪雨災害が発生し、74名の犠牲者がでた。災害発生後は被災地周辺の公民館から防災教育の依頼が数多くあり、広島豪雨災害の被災状況を概説するとともに、「警戒・避難」と題して、①危険個所はどこにあるか、②いつ避難するか、③どこに避難するか、をテーマとした講習とハザードマップ作成実習を行っている。

2. 講座の内容紹介

①広島豪雨災害の概要

平成26年8月20日未明、広島市安佐南区および安佐北区を中心に未曾有の豪雨が発生し、多くの方が犠牲になられるとともに甚大な被害が発生した。広島県危機管理課(9月19日)の発表によると、死者74名、負傷者44名、全壊建物133棟、半壊建物122棟であった。



②山本地区の崖崩れの実態と被災者の体験談

山本八丁目では高さ5mの裏山が崩れ、崖に面した1階に土砂が流れ込み、寝ていた子供2人が亡くなった。隣家の方は次のように話

しておられる。

「8月19日午後10時頃から強い雨が降り始めたと思います。土砂が崩れたのを確認したのは、午前2時30分～3時頃でした。きっかけは、家が揺れたことです。2階から裏山を懐中電灯で照らしたところ、既に家裏に土砂が堆積していました。これが第1波です。直ぐに、避難の準備をし、1階は危ないと思って駆け出すように家をでました。

家を出たら直ぐに第2波の崩壊が発生し、その時隣家の間位置まで土砂が到達してきました。車に乗って家を出た直後に第3波が発生し、車庫まで土砂が達しました。本当に危機一髪でした。」



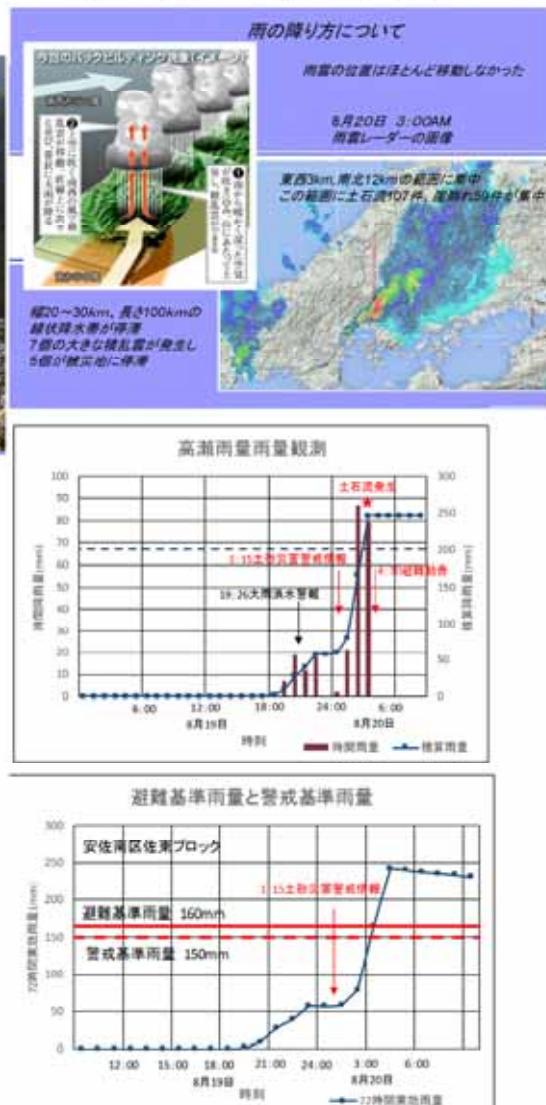
③八木三丁目、八木四丁目の土石流被害
阿武山を取り囲むように、緑井から八木地区に多数の土石流が発生した。
阿武山は中生代白亜紀の広島花崗岩と中生代ジュラ紀の付加帯堆積岩類から構成されている。広島における過去の土砂災害は、花崗岩が風化したマサ土といわれる降雨によって表層崩壊を引き起こしやすい土質に起因する災害が多いが、八木地区では硬質の堆積岩類が分布する急峻な斜面で多数の土石流が発生し、大きな被害をもたらした。



④降雨状況の説明

災害発生当日は太平洋高気圧が南下したため

西日本は高気圧の西縁部にあたり、湿った空気が流れ込みやすい状態になっていた。このため、日本海から東シナ海に延びていた寒冷前線および停滞前線の活動が活発となり、広域的に大雨が発生しやすい状況になっていた。災害の発生した安佐南区から安佐北区にかけては午前1時から4時にかけて時間100mmを超す雨が降り続けた。これはバックビルディング現象といわれ、積乱雲が次から次へと発生し、同じ場所で雨が降り続く現象である。



3. ハザードマップ作成演習

防災教育では参加者にハザードマップを作成してもらうことを目玉としている。

ハザードマップを作成することで、自宅周辺の危険個所を認識し、避難場所と避難経路を知ることにより、迅速で安全な避難ができる

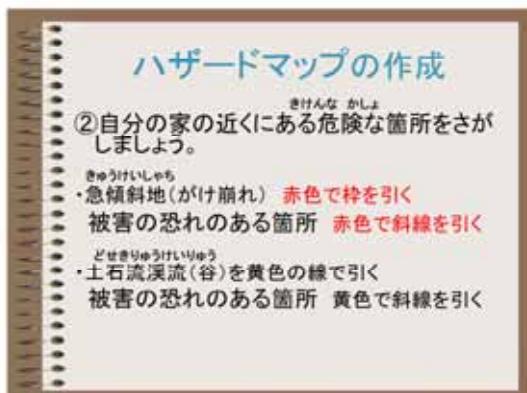
るようになるとを考えている。ハザードマップ作成は以下の手順で行っている。

① 自宅位置を白地図にプロット

2,500分の1の白地図をベースマップに使って自宅の位置にピンクのシールを貼る。

② 自宅周辺の危険箇所の転写

広島県が公表している危険箇所図に記されている、急傾斜地危険箇所と土石流危険箇所を、自宅をプロットした白地図に転写する。



③避難場所、避難経路、危険箇所プロット

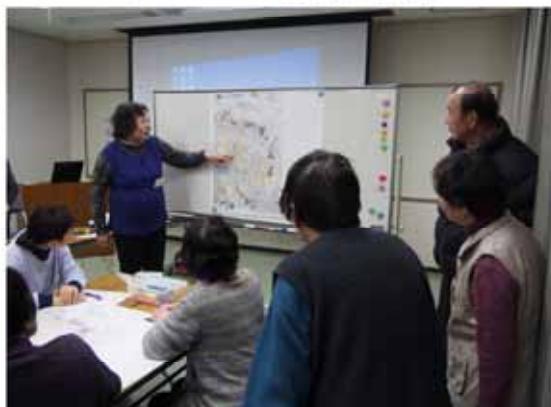
自宅に近い避難場所を緑のシールでプロットし、自宅から避難場所へ行く経路をチェックする。避難場所は複数選択し、雨の降る中、夜中に避難することを考えて安全な経路を選ぶ。避難する途中で、崖や水路などの危険箇所がある場合には赤○でチェックする。

④作成したハザードマップの発表

ハザードマップ作成は5～8人を1グループとして作業を行い、完成後、参加者の前で発表する。



ハザードマップ作成作業風景



ハザードマップの説明

4. 防災講座の感想

「甘日市立平良小学校5年生」

- ①避難するときに川を渡らないといけないので、大きな橋をわたるようにする。
- ②避難場所の近くの公園の山が崖崩れになりそうなので注意します。
- ③私の家は土石流が危険であることがわかりました。家族にもよく分かってもらえるよう、避難場所などを教えようと思いました。
- ④避難路は小さな川に沿った道なので、明るいうちに避難したいです。
- ⑤ハザードマップでは、はじめ、自分の家が分かりませんでしたが、旧平良小学校からたどって見つけることが出来ました。
- ⑥自分の家を探すのに苦労したけど、友達が教えてくれたのでよかったです。
- ⑦避難場所を2か所見つけたので、雨とか川の状況によってどちらに行くか決めたいです。

「古市公民館 ふるいちねんりん大学」

- ①今回の広島豪雨災害では、「広島は台風も地震も避けてくれる」と市民みんなが思い込み、油断があったと思う。消防、警察、市長、みんなが油断していたと思う。
- ②町内会の避難訓練をしているし、連絡係も設置してあるが、いざというときに役立つか不安。ハザードマップを配布してほしい。
- ③公的な避難場所へは行きにくいので、丈夫な建物の所有者に頼んでみます。早めに行動します。
- ④身近な例の説明で大変よく理解できました。
- ⑤避難所をよく見ておこうと思いました。
- ⑥今回、近くで災害が起きたので、いろいろと資料を見せてもらいよくわかりました。日頃からよく話し合って気を付けなければいけないことがよくわかりました。
- ⑦平素から近隣との交流、自主準備が大事なことがよくわかりました。
- ⑧このたびの災害の前に消防署にファックスで大雨情報が入っていたにもかかわらず、14人の署員が一人もファックスを見ていなかつたのは職務怠慢ではないですか。避難のサイレンが全然鳴らないのはどうしてでしょう。障害者、老人の居る家庭はあらかじめわかっているのに、その対策がなかった。
- ⑨自分の住んでいる所は絶対安全だと思っていたが、自分でしっかり判断し早く避難したいと思います。
- ⑩近年は地球温暖化で天気予報には常に気を付けて過ごしたいと思いました。自分の身は自分で守ることに心がけたいと思います。

「安東公民館 いきいき長寿大学」

講座に出席された毘沙門学区 横田自主防災連合会会長のコメント

毘沙門台では今回の豪雨で土石流と崖崩れが発生し、被災者がでた。自分は自主防災連合会の会長として避難所の開設、被災者の安否確認等を行った。2時30分から3時30分

にかけて土石流・崖崩れが発生し51世帯137名が緊急避難した。災害発生当初は自主避難というかたちで毘沙門小学校へ避難され、正門にて校長に連絡して開錠され体育館に避難された。

避難所の正式な開設は午前7時30分である。その後、役員、小学校職員、主婦のボランティアなど約70名の体制で支援を行った。避難所は8月20日～31日の11日間開設した。

今回の教訓と検討課題

- ・団地住民の方へ同時に連絡する方法の検討
→ 屋外の無線、防災サイレン等
- ・連絡網も家庭の固定電話では停電により使用できない状態になる。
- ・夜間で、睡眠されていると連絡がつかない
→ 事前の警鐘が必要である。
- ・公的機関の連絡を待っていては手遅れになる。
→ 各自の自覚が重要(防災メール等)
- ・公的な発表の精査・確認 → 現地確認

5. これからの活動

土石流被害の大きかった安佐南区八木地区と緑井地区では、地元の自主防災会を中心となって、今回の災害を教訓として独自の防災活動を始めている。八木地区で行った防災勉強会を契機に、地区に密着した防災マップを作成するというもので、平成27年5月の完成を目指し、6月に第1回防災訓練を行う予定である。防災マップでは、①公的な避難場所の他に身近な一次避難施設を設定し、突然の豪雨に短時間で避難できるようにすること、②土石流の氾濫区域を今回の災害を基に検証し、独自のイエローゾーンを設定して、より安全な避難路を設定すること、③地元住民がマップ作りに参加することにより防災意識を高めることが特色である。

技術士会中国本部では、広島土砂災害コミュニケーションサポー、広島県災害復興支援事業連絡会、建設コンサルタント協会中国支部防災委員会と協力して、本活動に取り組んでいきます。

平成 26 年度 公益社団法人 日本技術士会 防災支援委員会 名簿

NO.	氏名	部門・地域
1	大元 守（委員長）	建設・総技監
2	上野 雄一（副委員長）	建設・総技監
3	田村 裕美（副委員長）	建設
4	川原 伸朗（幹事長）	建設・総技監
5	小山 和夫（幹事長代理）	情報工学・総技監
2	山口 豊（専任委員）	建設
7	旭 勝臣	建設・総技監
8	佐藤 隆雄	建設
9	井上 護	衛生工学
10	大和田 義明	機械・総技監
11	島田 健夫三	電気電子・総技監
12	中嶋 幸夫	建設
13	丹羽 真	水産
14	福田 真三	建設・経営工学・総技監
15	尾形 芳邦	情報工学・総技監
16	末武 晋一	建設・応用理学・総技監
17	中野 裕司	森林
18	尾頭 誠	森林・総技監
19	八若 洋平	化学
20	阿部 定好	原子力・放射線
21	吉田 圭祐	建設
22	寺尾 雅人	農業
23	小林 正明	建設 北海道本部
24	神田 重雄	建設・総技監 東北本部
25	平野 吉彦	応用理学・総技監 北陸本部
26	吉田 建彦	経営工学・総技監 中部本部
27	石川 浩次	建設・応用理学 近畿本部
28	古川 智	建設 中国本部
29	古野 隆久	建設 四国本部
30	矢ヶ部 秀美	建設・応用理学 九州本部

平成 26 年度 公益社団法人 日本技術士会 中国本部 防災委員会 名簿

NO.	氏名	部門	県名
1	古川 智（委員長）	建設	広島県
2	藤本 瞳（副委員長）	建設・応用理学・総技監	広島県
3	青原 啓詞（副委員長）	応用理学	広島県
4	西村 悟之	建設・応用理学	鳥取県
5	新 任修	建設	鳥取県
2	石田 弘至	建設・総技監	島根県
7	嘉藤 剛	建設	島根県
8	小林 昇	応用理学	岡山県
9	政岡 哲弘	建設・総技監	岡山県
10	坂本 修	建設	山口県
11	山崎 幸治	建設	山口県
12	山下 祐一	建設・応用理学・総技監	広島県
13	外山 涼一	建設・応用理学・総技監	広島県
14	島田 淳次	建設・総技監	広島県
15	小林 公明	建設・総技監	広島県
16	濱田 弘治	建設・総技監	広島県

公益社団法人日本技術士会 (防災支援委員会)
〒105-0001 東京都港区虎ノ門 4 丁目 1 番 20 号 田中山ビル 8 階
TEL (03)3459-1331
FAX (03)3459-1338
URL <http://www.engineer.or.jp/>

(中国本部 防災委員会)
〒730-0017 広島市中区鉄砲町 1 番 20 号 第 3 ウエノヤビル 6 階
TEL (082)511-0305
FAX (082)511-0309
URL <http://www.ipej-chugoku.jp/>